

令和4年度第3回 令和4年12月17日開催  
聴くオフ・ミーティング報告書  
「これからの杉並らしい防災を考えよう」  
～住みなれたまちで、安心して心地よく過ごすには～



区では、区政への区民参加の仕組づくりを進めています。その取組の一つとして、その時々行政課題をテーマに、区長と区民が直接意見交換をする場「聴くオフ・ミーティング」を開催しています。今回は、「これからの杉並らしい防災を考えよう～住みなれたまちで、安心して心地よく過ごすには～」をテーマに、一般から応募された方と無作為抽出した 2,000 名の中から参加していただいた 18 名が、区の施策について話し合いました。



## ■ 区長のあいさつ

今回のテーマは、アンケートでのご希望が一番多かった「防災」にしました。防災は、私たち一人ひとりの問題でありながら、街全体、日本全体の問題でもあり、その中で、ハード面とソフト面を共に進めていく必要があります。特にソフト面に関しては、区民の皆さん、一人ひとりの参加や意識、地域社会での取組といったものが重要になります。そういう複合的かつ、緊急でありながらも長期的に考えていかななくてはならないという、この難しいテーマについて、今日は皆さんと話し合っていきたいと思います。



## ■ 防災を所管する各担当課からの説明

### ○ 都市計画道路担当

都市計画道路の機能は、主に「交通機能」、「市街地形成機能」、「都市防災機能」の3つが挙げられ、防災性の向上や避難所へ向かう避難路の形成を目的としています。都市計画道路の整備は、ハード面の対策として、とても重要になりますが、杉並区の都市計画道路の完成率は49%であり、東京都全体の64%と比較しても、とても低いことがわかります。これからの道路整備には、従来の機能に加え、賑わい空間の創出、安心・安全、新たなモビリティの通行に対応した機能が必要になるなど、「クルマ中心」から「ヒト中心」への新たな要素が求められています。



### ○ 狭あい道路整備課

狭あい道路(2項道路)とは、道路幅が4メートル未満の道で建築する際に、道路の後退(セットバック)が必要になる道路を指します。杉並区は、全国で初めて、支障物件の設置禁止と違反者への勧告・命令を可能とする内容を条例化しました。建築しない場合の後退も推進するため、費用負担の多くを助成金でまかなえるようにしています。道路の後退整備、突出電柱の移設を進め、平常時は福祉や清掃車両等の通行を確保するとともに、災害時は緊急車両の通行や避難路を確保し、良好な居住環境の整備と災害に強いまちづくりを推進しています。



## ○ 耐震・不燃化担当課

燃えにくい建物への建替助成や、倒れにくい建物への耐震改修助成、耐震性の低い建物等を取り壊す除却助成などの支援を行っています。耐震改修工事は、建物の倒壊による人的被害を防ぐだけでなく、道路の閉塞を防ぎ、地震直後の救急・消火活動や緊急支援物資の輸送などを妨げないという点でも非常に重要であり、建物の倒壊による出火・延焼も防ぐことができます。また、特に甚大な被害が想定される地域を対象に防災まちづくりに取り組んでおり、道幅6m以上に広げる道路整備や、公園などのオープンスペースの確保を、地域の皆さんと対話を重ねながら進めています。



## ○ 防災課

災害の被害を最小限に抑えるためには、自助・共助・公助それぞれの分野で、災害に対応する力を高め、連携し合うことが重要になります。防災課では、感震ブレーカーの設置支援事業のほか、防災用品をお求めやすい価格で提供して自助を後押ししています。地域の防災会に対しては、路上の消火栓に接続して使用する消火資機材（スタンドパイプ）を貸与し、定期的に操作訓練を実施するなど共助の力を高めています。その他、火災時に誰でも使用可能な街頭消火器の設置や、区主催の総合震災訓練の実施に加え、地域の震災救援所や防災会を中心とした様々な活動を支援しています。



## □□グループトーク□□



## □□体験□□



《起震車の体験》

《スタンドパイプの実演》

## □全体トーク その1□ 参加者の主な意見

「みんなで助け合う」というところで町会が大きく関わっていることを知りました。

震災が起きて、さらに火災などが起きたときに、具体的にどう行動すれば助かるのか。各地域の危険度に応じた対策をしていただけたらと思います。



「共助」には可能性があり、まだ弱いですが、もっと強くしていけば、地域の防災力をより高めることができるのかなと思いました。



今回参加した人の体験とそれ以外の区民、残り何十万という区民の間にはギャップがあると思っています。我々がどれだけこれから情報を発信できるのか、そういった役割もやらなくてはならないと認識しました。



## ■ 区長がさらに皆さんに聞きたいこと

皆さんが自分の地域の防災に関する取組を知ることでその重要性に気づき、仲間の輪も広がっていくのだろうと強く思いました。また、区民の中にある防災に関しての情報や意識などのギャップをどう埋めていけばいいか、お話をお聞きできれば嬉しいです。

### □全体トーク その2□ 参加者の主な意見

避難所というのが区立の小・中学校だと分かりました。AEDが、近所に設置されていても夜間は誰もいないような施設にしかないのので、避難所に置いて、いつでも使えるようになるといいですね。



自然災害ですから、いつ起こるか分からないけれども、災害からの被害のランクを低くしていくということを考えれば、もっと具体的に何をすれば良いかということが見えてくると感じました。

杉並区は、緑が多く、公園も近くにたくさんあるので、そういうインフラを上手く使うということが大切です。災害弱者や高齢者施設の方等に対しても、日ごろから避難場所や避難方法などをお知らせするとともに地域にも発信していくことが大切だと感じました。

広く区民に訓練参加をしてもらうのが、なかなか難しいです。解決策はアプリだと思うので、防犯・防災スマホ教室を開催し、災害の状況やどうしたらいいのかという情報を流していきたいと思っています。災害への備えをどうするかというのがポイントだと思います。



わかりやすくとか簡単にとかいうことが大切だと思います。成功例みたいなものを交えて話をするとイメージがしやすいと思います。また、公園等での宿泊体験など実際にやってみると、生きた経験として何かあったときに役に立つと思います。



## ■ ミーティングを終えて ～区長から

「杉並らしい防災」についての話し合いの中で、「共助」というキーワードがたくさん出てきました。「自助」「公助」ももちろん大切ですが、「共助」の部分にまだまだ伸びしろがあると感じます。杉並は住宅都市という大きな強みがあり、社会資本としての「地域社会」において人と人とのつながりが強い地域だと私は信じています。防災への取組は地域の要配慮者への見守りなどの行政課題ともつながっており、改めて地域づくり・人づくりの必要性を痛感しました。参加された皆さんには、今後もリサーチを続け、地域の防災におけるキーパーソンの一人になっていただきたいと思います。

### 防災対策を所管する担当部署から

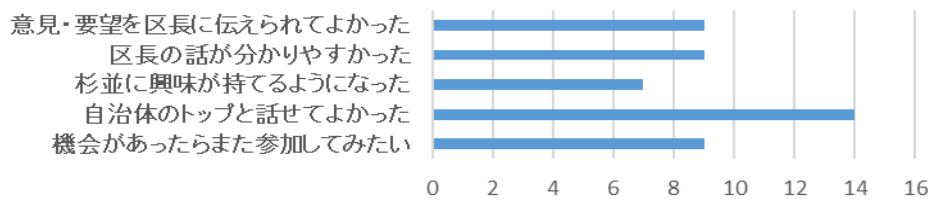
住民の生命、財産を災害から守るため、区では、平時から建物が倒れにくく燃えにくいまちづくりを推進するとともに、初期消火能力の向上など地域の防災対応力の強化に向けて、組織横断的に全庁一丸となって取り組んでいます。

今回のミーティングでは特に、自助・共助の取組についての様々なご意見をいただきました。

近年、日本全国で地震・風水害等の災害が多発しておりますので、より一層の緊張感をもって自助・共助の支援に取り組んでまいります。



### ミーティングに参加した感想（複数回答有）



令和4年度 第3回 聴くオフ・ミーティング報告書

・開催日 令和4年12月17日（土）

・参加者 区民18名、区長、都市整備部長、危機管理室長、防災課長、狭あい道路整備課長ほか

令和5年3月 編集・発行 総務部区政相談課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111